

平成 17 年 10 月 26 日（水） 第 2 校時

3 年 2 組 指導者名 藤井 久子

〔授業仮説〕

「読みの手引き」を作り、手引きを活用して読み進め、学習の流れに沿って整理し直すまとめの学習を組み立てることで、正しく読むことのできる児童が育つであろう。

1. 単元 まとまりやつなかりに気をつけよう

教材文 「広い言葉、せまい言葉」 (教育出版)

2. 考察

(1) 教材について

本教材は、トンボやセミ、キンギョなどを例に、言葉の上位概念と下位概念について理解させ、それを基に語彙の体系に関する意識付けを行うとともに言葉への関心を育てることができるものである。学習指導要領「C 読むこと」の「イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと。」及び、「オ 目的に応じて内容を大きくまとめたり、必要なところは細かい点に注意したりしながら文章を読むこと。」の学習に適した教材である。

ここでは、児童により手作りの「読みの手引き」の作成と活用を通して上記の読みを達成させたい。言葉の上位概念と下位概念をつかむためには、図示することが有効である。図示するために必要な言葉はかぎカッコで示され、さらに添付の写真や挿絵が手助けとなる。四つの大段落は一行抜きで示されていてつかみやすい。接続語と指示語に注意させること文末表現から問題文をつかむことを通して段落相互の関係と役割をつかむことができる。あらかじめこれらの学習活動を予想する活動を取り入れ、授業の中で活用させることで、文章の構成を含んだ内容理解を容易にするものとする。

(2) 児童の実態 (男 18 名 / 女 20 名 計 38 名)

【関心・意欲・態度】

説明的な文章の学習に意欲を示す児童は 10 名である。知識を得られることを理由に挙げる者が 8 名、理由がはっきりできない者が 2 名である。児童の多くは物語的な文章に筋の面白さを感じ、意欲を示すが、詳しい内容理解を心がけている児童は大変少ない。

【読むこと】

説明的な文章の読みについての意識は次のとおりである。(自由記述、複数回答)「題が大事である」(6 名)「形式段落が大事である」(6 名)「分かったことを書くことが大事である」(4 名)「こそあど言葉が大事である」(2 名)「句読点が大事である」(2 名)

このほかの 20 名の児童は、どのようなことに注意を向けて読めばいいかをまったく意識したことがない状態である。順序を意識した読み方は 20 名以上ができていますが、並べ替えたり、中心となる文をとらえたり、段落の役割を考えたりする読み方はほとんどできていない。読み取りに時間がかかったり、内容理解が浅かったりして個別に説明や付け足しが必要な児童が 5 名である。

【言語事項】

教師の事前調査と観察からは、指示語の内容に気付くことができる児童は 23 名、大事な語句に気付ける児童もほぼ同様である。これは問いかけに対する答えとしての結果であり、自主的な読み方としては身に付けていない。段落の役割についてはまだ意識されていない状況であり、段落構成についての学習経験もない。

音読はよく練習しているが、句読点を意識してよどみなく読める児童は 6 名である。たどたどしく読み直しが多くなる児童が 5 名、うち 2 名は個別について読むことが必要が多い。文字を書

くスピードが遅くて、書き写すことや、文を書くことに抵抗のある児童が数名いる。国語辞典の引き方は学習が済んでいるだけの状況であり、実際に使うには時間がかかる。

3. 指導方針

- (1) 「読みの手引き」作りを通して読み方を意識させるとともに説明的な文章の学習の面白さをつかませたい。

「読みの手引き」を作る時間は、ヒントとして既習の「学習の手引き」をプリントして配る。

「めだか」「森のスケーターやまね」についてどんな読み方をして学習を進めてきたかを分かりやすく話す。

一人ひとりに短冊を渡し、思い付いて書けたものから、黒板に貼ることで考えられない子どもたちにも気付けるようにする。

子どもたちから出された「読みの手引き」を同じようなもの、簡単にできること、簡単にできないこと、という3観点から順序よく整理してまとめる。

手引きの項目の中に学習のめあてにできるものがあることを確認し、学習の見通しを示す。

- (2) 「読みの手引き」を活用して『広い言葉、せまい言葉』を読み、言葉の上位概念、下位概念をつかませたい。

「トンボ」<「こん虫」<「動物」<「生物」という関係を読み取らせ、ほかの言葉を使っても同じような関係ができることを理解させる。

大事な言葉、大事な文、大事な段落という順で「読みの手引き」を使いそれぞれを見付け出させる。

『広い言葉、せまい言葉』から、言葉についての文章であり、大事な言葉も大事な文も大事な段落も言葉が取り上げられることに気付かせる。

接続語に注意を向けることで大事な文や、大事な段落がつかみやすくなることに気付かせる。

指示語は、その前文を読み直すことから適切につかんでいけるようにする。

大事な言葉、大事な文、大事な段落を分かりやすく表すために図が有効であることに気付かせ、「読みの手引き」にない場合は付け足して書かせる。

かぎかっこの言葉や、題名に結び付く言葉が重要な言葉になることを理解させる。

「読みの手引き」のどの項目を使って授業のめあてに迫ったかを振り返りとして記述させる。

発言においても「読みの手引き」が活用できるようヒントを与える。

- (3) 「読みの手引き」を学習の流れと目標に沿って並べ替え整理することで説明的な文章の読み方をつかませたい。

学習を振り返り登山に見立てて手引きとして有効だったことを短冊に書かせる。

手引きを道しるべにたとえて黒板に貼って示すことで学習を整理する。

各自の登山地図を完成させることで、学習のめあてと役立った手引きの関係をつかませる。

子どもたち一人一人の登山地図を認め、学習の達成感をもてるよう言葉をかける。

- (4) 学習の全過程を通して国語辞典の使い方に慣れるよう配慮し、発表の言葉遣いにも適切な支援を行いたい。

4. 単元の構想

(最後に添付)

5. 本時の学習

- (1) ねらい

「読みの手引き」を振り返りの記述を参考にして学習の流れに沿って並べ替え、整理することで説明的文章の読み方をつかむ。

- (2) 準備

白紙の短冊 ワークシート

(3) 展開

学 習 活 動	時間等	指導上の留意点・支援など	評 価 項 目
・ 本時の課題を知る。	2 つ か む	・ 『広い言葉、せまい言葉』の学習を登山に見立てて流れに沿って整理し、まとめる時間であることを伝える。 ・ 興味をもてるよう黒板に山の図を書く。	・ 『広い言葉、せまい言葉』のまとめる時間であることが分かっている。 (観 察)
・ 短冊に「読みの手引き」の項目を書き、それらの項目を順序に従って整理する。 ・ 各自が学習の流れに沿って手引きの項目を整理し直して記す。	3 5 ふ か め る	・ ノートの振り返りの記述を見直させ、印象強く残っているものを書くよう指示する。 ・ 一人で書けない時は、隣同士で相談し、1枚でもよしとする。 ・ 期間巡視をしながら同じ項目にならないよう、大切な項目が抜けてしまわないよう少しずつアドバイスをする。 ・ 短冊を山の高さに配慮しながら順に黒板に貼り付けていくようにする。 ・ ワークシートを配って、各自の登山地図として手引きの項目を書いて完成させる。 ・ 全員が書けたことを確認し、学級全員で整理していこうと呼びかける。 ・ 教師が司会をし挙手による意見発表とハンドサインの承認で、黒板の登山地図を完成させていく。 ・ あらかじめ期間巡視によって、違う意見のものをつかんでおき、話し合いが深まるよう配慮して指名する。	・ 振り返りの記述を基に、「読みの手引き」から項目を選び出して書いている。(短冊) ・ 黒板に出て短冊を貼っている。(観 察) ・ ワークシートに手引きの項目を書き込み、登山地図に仕上げていく。(ワークシート) ・ 項目の順序や関係性を考えた意見を発表している。(発 言) ・ 他人の意見を聞き、自分の意思を表している。(ハンドサイン)
・ 完成させた学級での登山地図と各自の登山地図を比べて感想をもつ。	1 0 ま と め る	・ 黒板に記された学習登山地図と自分が考えて書いた学習登山地図の違いを中心に、感想を書かせる。 ・ 時間があれば数名の感想を発表させてまとめとする。その際説明的文章の読み方について書いてあるものを選ぶようにする。	・ ワークシートに感想を書いている。(ワークシート) ・ 自分の感想を発表している。(発 言)

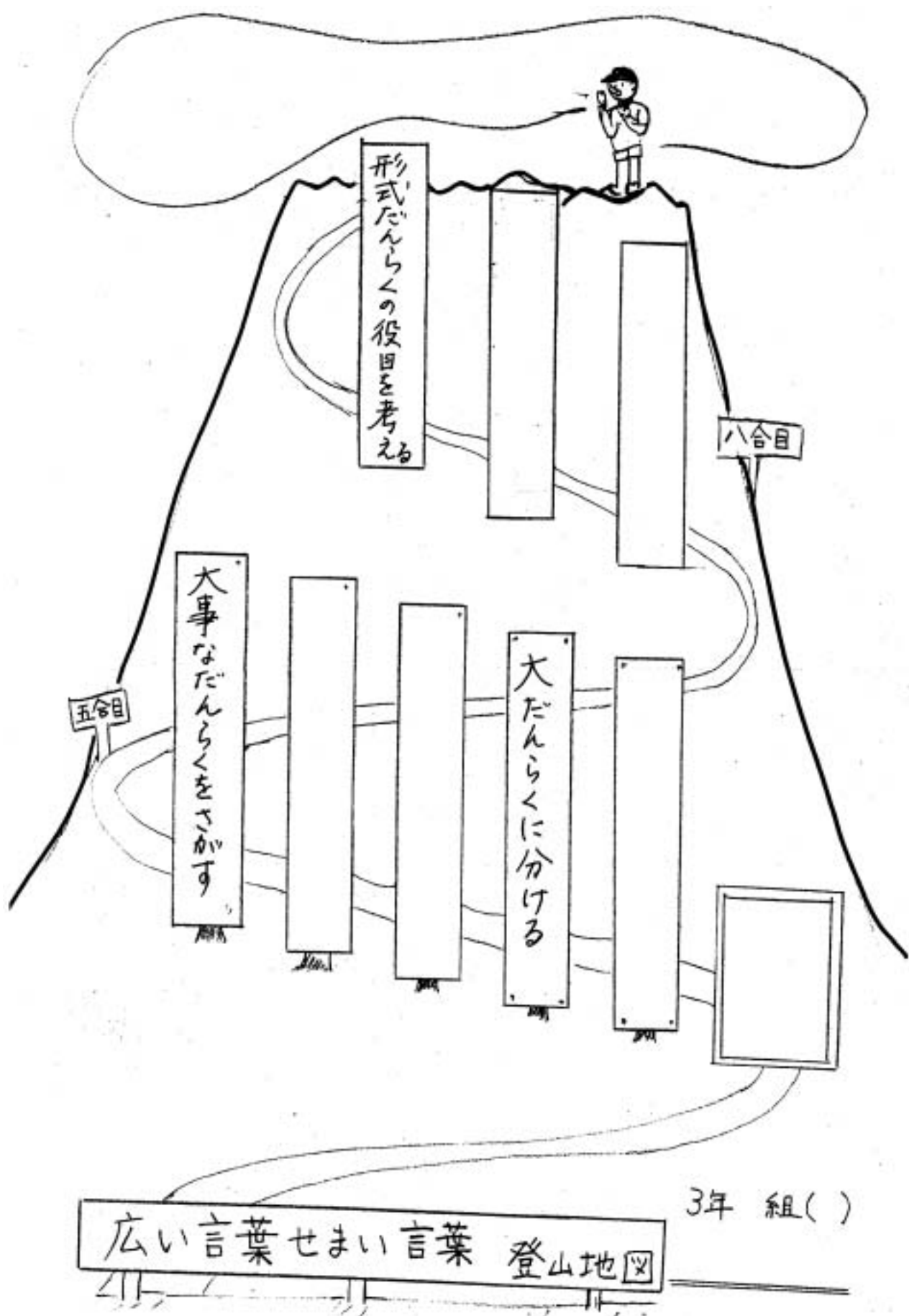
4 . 単元構想 (全 10 時間予定)

単元の系統	
2 年	じゅんじょやようすを考えよう 「さけが大きくなるまで」
2 年	まとまりやつなかりに気をつけよう 「広い言葉、せまい言葉」
4 年	筋道を立てて考えよう 「アーチ橋の仕組み」

教材の系統	
「めだか」「森のスケーターやまね」	
↓	
「広い言葉、せまい言葉」	
↓	
「くらしと絵文字」	

目標	○ 「読みの手引き」を作成し、活用することで進んで説明的文章を読もうとする。 ○ 「読みの手引き」を作成し、活用することで説明的文章の読み方に気付き正しく読む。 ○ 接続語や指示語をとらえて段落の役割を知る。			
評価基準	観点	十分満足できる状況	おおむね満足できる状況	
	関心・意欲・態度	「読みの手引き」を活用して他の説明的な文章を読もうとしている。	「読みの手引き」を活用すると説明的な文章が読みやすくなることを知っている。	
	読むこと	「読みの手引き」の活用の仕方が分かり、広い言葉とせまい言葉の関係を理解するのに必要な読み方を身に付けている。	「読みの手引き」を活用しながら読み、広い言葉とせまい言葉の関係を理解している。	
	言語事項	大事な言葉、大事な文、大事な段落を見付け出すために接続語や、指示語の働きを活用している。	大事な言葉、大事な文、大事な段落の順に見付け出している。	
時間等	主な活動及びねらい		支援、及び指導上の留意点	評価項目
つかむ	1	・全文を通読し、分かったことと分からないことを書き出す。 ・『広い言葉、せまい言葉』について内容を大まかにつかみ、学習の意欲をもつ。	・教師が範読し教科書に印を付けながら聞かせる。 ・ノートに書くことは短くてよいことや何でもよいことを伝える。	(関)分かったことと分からないことをノートに書いている。 (話)分かったことと分からないことを皆に聞こえる声で発表している。
	2	・「 <u>読みの手引き</u> 」を作成することで関心を高め読み方を意識付ける ・「読みの手引き」を作成する	・説明的文章の読み方を発見していく学習であることを分かり易く伝える。 ・教科書の既習の学習の手引きをプリントしてもたせ以前の学習を参考にさせる。 ・短冊に書いて黒板に貼り、使いやすいものにまとめていく。	(読)説明文を正しく読むことを意識して項目を考えている。 (関)読みの手引きの項目としてふさわしいものを選び発表している。
ふ	3	・「説明文を読んじょう」を活用しながら自由に読む。 ・「 <u>説明文を読んじょう</u> 」を活用して読もうとする。	・形式段落への付番、段落のはじめの言葉に印を付けるなどの作業を促す。 ・全体で作業の確認をして、今日の学習で分かったことを振り返らせ書かせる。	(関)「説明文を読んじょう」を活用している。 (読)形式段落や、はじめの言葉に印を付けている。
	4 5	・ <u>大段落1を読み、「トンボ」はシオカラトンボ、ハグロトンボ、オニヤンマより「広い言葉」になることをつかむ。</u> ・大事な段落を見付け、大事な文、大事な言葉の順に印をする。	・段落が大事な段落であることを読み取らせる。 ・の中の大事な文が「つまり」という接続語の後に続いていることを手引きを使って気付かせる。 ・必要な項目は順次手引きに付け足していく。	(読)中心となる段落を見付けている。 (言)「つまり」を手引きとして中心となる文を見付けている。

か め る		・<u>内容をつかむために図示が有効であることが分かる。</u> ・授業に役立った手引きを振り返りとしてノートに書く。	・トンボ、ハグロトンボ、シオカラトンボ、オニヤンマの関係をワークシートに書かせる。 ・振り返りの記述として「～のためには～の手引きが役に立った。」と分かりやすく書けたものを読み上げる。	(読)トンボ、ハグロトンボ、シオカラトンボ、オニヤンマの関係をワークシートに書いている。 (読)ノートに振り返りの文を書いている。
	6	・<u>大段落2を読み、「こん虫」という言葉はトンボ、セミ、チョウより「広い言葉」だと分かる。</u> ・「こん虫」トンボ、セミ、チョウという言葉の関係を図示し、振り返りの記述を書く。	・題名や、繰り返し使われることを手引きとして、大事な言葉を探し、そこから大事な段落を読み取らせる。 ・大事な文を探すには、[接続語に気をつける]、大事な段落を探すには[段落の最初の言葉]は手引きとして役立つことに気付かせる。 ・ワークシートに「こん虫」トンボ、セミ、チョウの関係を正しく書き込み貼り付ける。	(読) 段落が中心となる段落であることを読み取っている。 (読)「こん虫」トンボセミ、チョウの関係を正しく書いている。
	7	・<u>大段落3を読み、「動物」はこん虫、魚、鳥より広い言葉だと分かり図示する。</u>	・「」の言葉に気をつけて読むことを手引きとしてシオカラトンボと「こん虫」、リュウキンと「キンギョ」と「魚」、白色レグホンと「鳥」の関係を読み取らせる。 ・ワークシートにこん虫、魚、鳥、「動物」の関係を正しく書きこみ貼り付ける。	(言)『「動物」がそれにあたります。』という文の「それ」を正しく読み取っている。 (読)「動物」こん虫、魚、鳥、の関係を正しくワークシートに書いている。
	8	・<u>大段落4を読み、「生物」は「動物」より広い言葉だと分かり、関係を図示する。</u>	・「生物」は今までの言葉のどれも取り込む「広い言葉」だということを、「せまい言葉」と比べることで読み取らせる。 ・題名は本文の中心の言葉になっていることに気付かせる。 ・シオカラトンボから「生物」までの言葉を「トンボ」<「こん虫」<「動物」<「生物」の順に正しくワークシートに完成させる。	(読)「」の言葉を拾い出し、広狭の関係を図示している
	9	・<u>形式段落の役割をつかむ。</u>	・段落の始めの言葉や印のある大事な文、大事な言葉を手引きとして形式段落の役割を考えさせる。 ・説明、問い、答え、始まり、まとめなどの役割を確認する。	(読)段落の役割をノートに書いている。
ま と め る	10	・<u>「読みの手引き」を学習に沿ってまとめ説明的文章の読み方をつかむ。</u>	・学習を登山に見立てて「読みの手引き」を並び替え、学習の整理をさせる。 ・短冊とワークシートを使って学習が楽しく進むよう配慮する。	(読)「読みの手引き」を学習に役立つものとしてワークシートに書き換えている。



手　　引　　き															題	説明文を読んじやおう
					せつ明していきるといかに気を付けて読む	大きなまとまりに分ける	大事なだんらくをさがす	話の変わるだんらくを見つける	大事な言葉はノートに書く	文の終わりの言葉に気をつける	文のはじめの言葉に気をつける	だんらくのはじめの言葉に注意する	形式だんらくに番号をつける	音読する時は点と丸で切る	分からない言葉を国語じてんで調べる	
					ノートを読み返して大事なことを落とさずに書いて いるか確かめる											